



千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

92.9.22 No.3662

第19回定期大会に結集しよう

10月3日(土)4日(日)、「のさか望洋荘」

動労千葉第一九回定期大会が、一〇月三、四日、野栄町「のさか望洋荘」で開催される。今大会は、「分割・民営化」五年をあらゆる意味で検証し、今後の闘いの方向性―反転攻勢に本格的にうって出る重要な大会です。「分割・民営化」体制は二つの観点から崩壊過程に進んでいます。

まず第一は、「長期債務の償還」を表面きの理由としてきた「分割・民営化」そのものの破綻です。バブル経済に立脚した、「土地売却」「株放出」は今や水泡に帰し、清算事業団の長期債務は増大しています。

新幹線のJR各社買取にみるまでもなく、その体制そのものの「見直し」は、JRが「第二の国鉄」として「搾取の温床」になるということです。

第二は、「分割・民営化」を推進した「JR体制」の崩壊です。

西日本から始まったJR総連の切り捨ては、今後JR東日本・貨物への波及を大きくはらみつつ進んでいます。

会社側の労務政策の変更は、崩壊した「分割・民営化」体制の解決のために、東日本に代表される「鉄道部門五万人体制」、貨物の「八〇〇〇人体制」などの大合理化での乗りきりを策している以上、さらなる崩壊へと進むことは必定です。

動乗勤改善、「時短」や「新検査方式」などは、その先鞭をなす攻撃でした。

より一層の安全を無視した合理化は、多発する事故―運転保安の危機に直結しています。今こそ、国鉄労働運動が命脈をかけて闘い築いてきた反合・運転保安闘争と清算事業団闘争の真価が問われる時が到来しているのです。

その意味で動労千葉こそが、この「分割・民営化」五年を本当の意味で検証できる勢力であることをはっきりと認識できるのです。

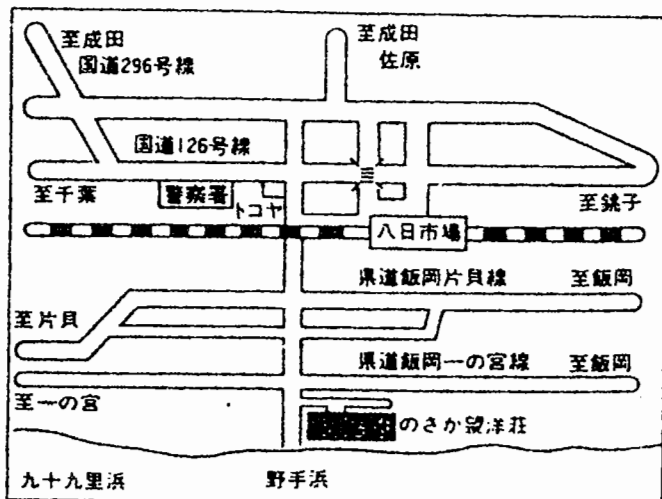
また、今秋はPKO海外派兵阻止闘争の最大の焦点です。カンボジアへの自衛隊の派遣は、いままた侵略の歴史に踏み出すものなのです。われわれは組織の総力をあげて、この闘いに立ちあがらなければなりません。

そして、「一二月ダイ改」と時を同じくして、営業関係の合理化―強制配転者の原職復帰の闘いも正念場を迎えています。

「塩づけ」攻撃を断固打開し、運転関係への道すじをはっきりとした形で、闘いとらなければなりません。反転攻勢こそ勝利への道です。そしてその時期と情勢が揃って、眼前に展望とともにあるのです。全力で第一九回定期大会に結集し、闘いへの方針を確立しよう！



10.1~2
小牧へ!
(愛知)



★送迎バス...12:45分、八日市場駅発